

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	European Studies の研究ツール開発に関する研究 (7)				
研究組織	代 表 者	所属・職名	国際関係学部・教授		氏名 栗田 和典
	研究 分 担 者	所属・職名	氏名	所属・職名	氏名
		国際関係学部・教授	剣持 久木	国際関係学部・教授	前山 亮吉
		経営情報学部・教授	上野 雄史	国際関係学研究科・准教授	浜 由樹子
		国際関係学部・准教授	石川 義道	国際関係学部・准教授	小窪 千早
		国際関係学部・准教授	小谷 民菜	国際関係学部・准教授	佐藤 真千子
		国際関係学部・准教授	マティアス・ファイファー	国際関係学部・准教授	堀内 賢志
		国際関係学部・准教授	宮崎 晋生	国際関係学部・准教授	森 直香
		国際関係学部・准教授	米山 優子	短期大学部・准教授	有元 志保
		国際関係学部・講師	西村 晶絵		
	発 表 者	所属・職名	国際関係学部・教授		氏名 栗田和典

講演題目
European Studies の研究ツール開発に関する研究 (7)
研究の目的、成果及び今後の展望
【目的】 本研究の目的は、国際関係学研究科附置の広域ヨーロッパ研究センター（Wider Europe Research Center）の研究活動の成果を、国際関係学部および国際関係学研究科の教育に資するものへと展開することである。 「広域ヨーロッパ」はアフリカおよび南北アメリカとともに環大西洋世界を構成し、16 世紀の第一次グローバル化からアジア太平洋地域と構造的な一体性をたもってきた。また現在に至るまで、諸地域や国家が礫岩（conglomerate）にもなぞらえられるような集塊化と流動化をくり返し、多様でありながら一体をなす地域世界である。したがって、「広域ヨーロッパ」という対象にアプローチするには動的な把握を可能にする視点がもとめられ、国際関係論をはじめ、政治学、経済学、文化研究、言語学、文学研究、歴史学など、さまざまな研究分野の成果を活用しなければならないことは明白である。研究の初期にある学生にたいしてはこうした学際性を示すことが重要である。 【成果】 当初は研究期間を 6 年と予定していたが、Covid-19 の流行のために活動が休止した時期があり、1 年だけ延長したのが 2024 年度であった。年度計画では、過去 6 年間の取り組みとおなじく、研究分担者が報告する研究会、および外部機関の研究者等を招聘する特別講義、ワークショップ、シンポジウムの開催、ウェブサイトに登載する教育資料の充実、国内外の教育機関との情報交換、合同ゼミ学生発表会などの企画を設定した。さらに、2024 年は日本とトルコの国交樹立 100 周年にあたり、在イスタンブール日本総領事館の後援のもと、ボアジチ大学アジア研究センターとの共同開催の形式で開催する記念特別講義シリーズに重点をおくこととした。 オンライン会議システムの積極的な利用により、日本トルコ国交樹立 100 周年記念特別講義は 12 回の企画を開催できた。全体のまとめとして WERC 研究会もおこなっている（2025 年 1 月 23 日）。ほかにも、特別講義はイタリア・パルマ大学やドイツ・ブレーメン経済工科大学の教員による連続講義（ガストロノミーツーリズムや言語多様性に関するもの）、静岡県立美術館の学芸員による企画展との連動を図ったものなどの多様な内容で開催することができ、トルコ語講座や美術教育キットなどもふくめて、初学者である学生が知的な刺激をうけ、研究入門的な知識と方法を身につける一助になったものと考え。学部内の 5 ゼミの参加を得て 12 月に開催された合同ゼミ学生発表会では、ハイブリッド形式によって遠隔からの参加とコメントをリアルタイムで共有できた。2023 年 2 月トルコ・シリア地震の被災にたいする支援活動をセンターの研究員、留学生、一般学生は、研究と社会貢献をむすびつける意義を持つが、ひとまず 2024 年 9 月で終了した。別のかたちでの支援の継続を検討する。 【展望】 本研究の直接の成果となる研究ツールの作成の準備は、今年度もまた卒業研究や修士論文にとりくむ学生の傾向および学会動向の把握を継続した。合同ゼミ学生発表会で提示されたテーマには国際的な紛争状態、国内における社会の分断、表現芸術としての映画や演劇のジェンダー、歴史認識、構造主義による分析などがあつた。研究ツールの構成原則は、①基本的な事実や先行研究における共通の了解事項の説明、②事実や事項にたいする複数の議論の要点の提示、③複数の視点からの考察の促進、である。WERC ウェブサイトでの公開を目標にしつつ、研究員個々が授業（とくに演習＝ゼミ）において実践を継続することがもとめられる。